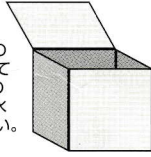


もりのしいたけ農園 **栽培容器付き** 栽培方法

●セット内容:栽培ブロック／きのこ栽培容器／栽培説明書[本書]

1 栽培ブロックを袋から取出します。

※すでにシイタケの芽が出ている場合、小指大、親指大の場合は、そのままの状態②から手引書に沿って始めてください。それ以外の場合、一旦収穫して⑦の浸水操作から栽培始めてください。(再び発芽してきます)



2 栽培ブロックを水洗いします。

1. 軽く手でなでるようにして、表面を、ぬらす程度に水洗いしてください。

※タワシでこすらないでください。

※高温期(6～9月頃)はブロックをバケツなどの容器に入れ、ブロックがある程度水に浸かる状態にします。その状態で30分ほど放置し、ブロックに給水させた後残った水を捨てます。



水道水使用可

7 浸水操作

ブロック表面のシイタケの芽をすべて収穫したら、バケツ等に水を入れ、ブロックを浸け込みます。この時浮かばせないように上に重石を載せます。

浸水時間:8～15時間

※厳寒期になるほど長い時間浸水します。

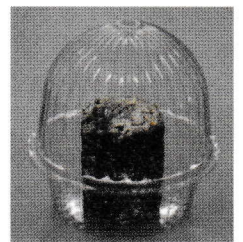
浸水作業の際、ブロックの重量が浸ける前より少し重くなっていることを確認してください。重たくならない時は、ブロックの底の部分に爪楊枝や千枚通しなどで穴を数カ所あけ、水を吸いやすくして再び浸水作業を行ってください。



ブロックが浮かないように重しをして、没した状態でおよそ一晩程度放置します。

3 発芽準備 霧吹きで濡らして栽培容器の中にブロックを入れます。

付属の栽培容器に入れ、4～5回霧吹きでたっぷりと、またはコップの水をかけてまんべんなく表面を濡らします。

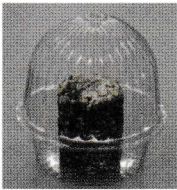


注) ブロック表面が乾きますと、シイタケの芽が出ないこともあります。

発生2巡目以降は、この工程は、休養期間になり、通常2～3週間かかり、その間表面的な変化は現れません。

6 休養

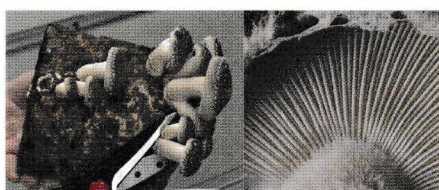
収穫後はブロックを2～3週間ほど休ませてください。休養期間中はブロック表面が乾かない程度に霧吹き等で水を上げて下さい。



5 収穫

傘が開いて、傘の裏側にヒダが見えるようになったら収穫の時期です。傘の縁に巻き込みがあるうちに、ハサミやカッターでブロックを傷めないように切り落としてください。

↓傘の裏側のヒダ



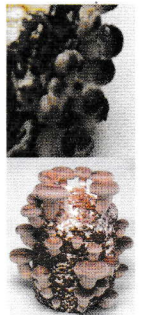
4 シイタケの芽が出てきます。発芽と育成

5日～2週間すると、小さいシイタケの芽が出てきます。気温が高く、室内の栽培温度が18℃以下にならない場合は、夕方より朝まで屋外へ栽培容器ごと出し、朝は室内に入れるとよいでしょう。昼間は20℃～23℃にします。

お勧め栽培温度

朝～夕方(日中) 20～23℃

夕方～朝(夜間) 18℃以下



育成中もブロックを栽培容器に入れた状態で管理してください。

収穫時一番陥りやすい“失敗”

シイタケを大きくしようとして、収穫時期が遅くなると、傘の裏側、ヒダの間から胞子が飛び、テーブルやブロックの表面、栽培容器の内側に付着して、“白いカビ”がついたように見えます。”小さいシイタケでも、シイタケの傘が開いて、裏側にヒダが見えるようになったら収穫してください。収穫を遅くしても、それ以上大きいシイタケにはなりません。また、ブロックの表面や容器の内側に胞子が付着した際は、洗い流してください。必要以上の散水はカビの原因となりますのでおやめ下さい。



※栽培期間中は、ブロックがいつもしっとりしている状態を保つようにしてください。

※高温期(6～9月頃)は、クーラーが効いた部屋など家の出来るだけ涼しい場所で管理してください。

●栽培ブロックは直射日光、高温の場所を避けて管理してください。

●栽培温度や湿度条件により収穫するきのこの傘色に違いがでます。ただし、品質面に大きな差があるわけではありません。

●栽培ブロックの表面が乾燥しすぎると、青カビが付着することがあります。

※購入後はただちに栽培を始めてください。(購入後そのまま保管していると、箱内でキノコが発生してしまう場合があります。)